

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年7月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2023年7月10日～7月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 131社
- 回収率 65.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の7月の状況を見ると業況DIは、前月より3.4ポイント改善の▲16.0となった。

2017年9月以来71ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲10.7、当月と比べ5.3ポイントの改善が見込まれる。

## 旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2023年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2023年8月～ 2023年10月
業況	▲31.0	▲24.5	▲18.8	▲20.2	▲19.4	▲16.0	▲10.7
売上	▲8.0	▲4.9	5.3	8.5	2.2	4.6	1.6
採算	▲31.0	▲23.7	▲21.0	▲20.9	▲17.9	▲17.6	▲11.5
仕入単価	▲69.0	▲67.2	▲68.4	▲67.4	▲67.1	▲65.6	▲55.7
販売単価	31.8	29.5	28.6	31.8	32.8	30.5	26.0
従業員	30.9	31.1	33.1	29.4	32.8	34.3	38.1
資金繰り	▲18.2	▲17.2	▲7.5	▲10.1	▲11.9	▲6.9	▲6.1

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2023年8月～ 2023年10月
建設	▲65.5	▲53.6	▲20.7	▲39.3	▲35.7	▲26.7	▲23.3
製造	▲27.6	▲32.1	▲20.0	▲23.4	▲25.8	▲13.8	▲6.9
卸売	▲16.7	▲10.3	▲9.4	▲10.0	▲9.7	▲3.1	6.3
小売	▲29.4	▲11.1	▲4.4	▲14.3	▲22.7	▲33.3	▲38.1
サービス	▲9.5	▲5.3	▲47.3	▲10.0	0.0	▲5.3	5.3

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資機材単価については、上昇傾向であり利益圧迫の可能性がある。ラピダス・JRTT・札幌駅前開発等大型工事による資機材の不足と、それに伴う価格の高騰が懸念される。（総合工事）</li> <li>・個人消費は、物価高による下降圧力はあるものの、ベースアップなどによる賃金上昇を追い風に回復が続くと予想であるが、工事の受注は戸建てを中心に悪化が止まらず、物価は高止まりで価格転嫁も不十分な状況では業績低迷の底が見えない。しかし、このような中でも、人材については、将来を見据え即戦力（資格保有者）と若い人材の確保を積極的に進めている。（設備・その他）</li> <li>・大工不足が最大の経営課題であり、新卒の若手を計画的に確保するためにも賃金アップは欠かせないが、ワークライフバランスを考慮した働き方の改善も並行して行っていく方針である。住宅業界の環境は依然厳しい状況であるが、OB 客からの紹介に頼った営業だけでなく、少ない顧客をいかに取り込んでいくか。SNS を有効活用した顧客獲得戦略を立て直す必要性がある。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の収穫が始まってきた。今後農繁期を迎え、募集をかけ人材の確保に努めていきたい。（食料品）</li> <li>・ブランディングに取り組んでおり、既存の商品を全て新しい商品に入れ替え、価格帯も上げたことで既存のお客様の受注が減っている。新規販路開拓が必要。（家具・木材）</li> <li>・年内の仕事量が減少。見積りも減っている。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今月は前年同月よりも売上が落ちた。しかしながら、今月以外の月も含めトータルで考えると物価高騰の後押しで横ばいに推移している。商品の欠品はなくなってきたが、原材料高騰や円安による値上げは続いており、先行きは不安である。（繊維・衣服等）</li> <li>・正油・砂糖・電気代の上昇でまだまだ不安定。観光客・町内会などの行事の准新が活発化しているのが動いている。（飲食料品）</li> <li>・仕入単価の上昇はあるものの価格転嫁できているため売上は伸びている。経費上昇分も今のところ売上の増加により採算が取れている。（機械鋼材）</li> <li>・当月の業況については、前年同月の売上と比較し微減で推移。来月以降の見通しについては、当月に大きな催しを行ったことにより、多くの予約販売を獲得し年後半は徐々に回復するものと思われる。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月1日よりサマーセールがスタートしたが来店客数はあまり多くない。OFF 率が 30%～40%。ネットでは 50%OFF 以上の商品が数多く出品されている。売上が厳しい。顧客はバーゲンに慣れてしまっているようである。（衣服身回品）</li> <li>・コロナの回復により、昨年より増収傾向が継続していたが増加率が落ちてきた。しかし、観光地需要にまだ勢いがあり今期は増収継続の見込。コロナ禍のため出来ていなかった設備更新を実施。利益計上は、原材料・光熱費高騰が影響し今後利益計上が厳しくなる。更に、今年度は政府が掲げる最賃引上げの影響で人件費は更なる上昇となる予想。弊社の半数はパート職員のため、最賃引上げは人件費に大きく影響。来年度からの物流問題で配送体制変更、それにより経費増加となる。（食料品）</li> <li>・夏休みから行楽シーズンで燃料販売量の若干増も見込めるが、予想通り 7 月も燃料油の利益が厳しい内容だろう。仕切りの上がりに対し販売価格の値上げが遅れない事と、今以上に需要家達の理解が必要となってくるので接客対応にも注意。（その他）</li> <li>・大手中古車販売店に売り負けしている状況が続いている。（自動車）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相変わらずエネルギー費・仕入れ価格は高止まり。インバウンドも回復しつつあるがまだ弱い。これから秋・off に向け一層の増加を期待したい。（ホテル・旅館）</li> <li>・上半期を終え前年度並みの売上げを確保しているが、外注単価や光熱費の増加により採算が悪化している。（その他）</li> <li>・売上・客数はコロナ前の 7 割程度まで回復しているが、原材料の高騰でメニュー価格も 1 割～2 割値上げ。財布のヒモは硬く、外食にまでお金が回らないのではないかと。（飲食）</li> <li>・全体的な業況は回復しつつあり、燃料代・電気代等の高止まりにも堪えてはいるものの、コロナ期に膨らんだ借入金の返済負担を考えるとキャッシュが生み出せていないという厳しい状況は続いている。夏期の観光シーズンの来客増に伴う増収を見込むものの、人員不足は否めない。総合判断として、前年よりも厳しい状況である。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI15.4 ポイント改善、採算 DI23.9 ポイント改善、仕入単価 DI5.0 ポイント改善、販売単価 DI1.4 ポイント悪化、資金 DI7.8 ポイント改善、従業員 DI2.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.0 ポイント改善となった。業種別では、総合工事 6 ポイント悪化、設備・その他横ばい、建築業 43 ポイント改善となった。工事の開始乗込みが遅れて来たことにより、数現場が重複工事となり、人手不足が懸念されるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI6.7 ポイント改善、採算 DI17.7 ポイント悪化、仕入単価 DI7.8 ポイント悪化、販売単価 DI4.4 ポイント悪化、資金 DI10.8 ポイント悪化、従業員 DI10.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 12.0 ポイント改善となった。業種別では、金属窯業他 13 ポイント悪化、印刷・出版横ばい、食料品 38 ポイント、家具・木材 17 ポイント改善となった。原材料・資材の値上がりがあるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI17.9 ポイント改善、販売単価 DI2.2 ポイント改善、資金 DI9.6 ポイント改善、従業員 DI5.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.6 ポイント改善となった。業種別では、その他横ばい、繊維・衣服等 3 ポイント、食料品 22 ポイント、機械鋼材 4 ポイント改善となった。業務システムの基盤刷新プロジェクトを推進中。業務の効率性が上がるなどの声が聞こえているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI13.6 ポイント悪化、採算 DI5.8 ポイント悪化、仕入単価 DI3.0 ポイント悪化、販売単価 DI3.3 ポイント悪化、資金 DI5.2 ポイント悪化、従業員 DI7.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 10.6 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 3 ポイント改善、衣料品横ばい、その他 13 ポイント、自動車 17 ポイント悪化となった。売上は増加傾向にあるが原価は上昇している為、不変であるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI7.2 ポイント改善、採算 DI5.2 ポイント改善、仕入単価 DI10.1 ポイント悪化、販売単価 DI3.4 ポイント悪化、資金 DI13.0 ポイント改善、従業員 DI13.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.3 ポイント悪化となった。業種別では、ホテル・旅館 20 ポイント、整備業 100 ポイント改善、その他横ばい、理美容・クリーニング 100 ポイント、飲食 50 ポイント、運送 50 ポイント悪化となった。光熱費・仕入単価の上昇幅が大きく、売上 UP 分を大きく圧迫。人員確保も想定外の 50%以下の状況との声も寄せられている。</p>